

目指す学校像		東京都立野津田高等学校 教育活動の指針(スクール・ミッション及び3つのスクール・ポリシー)を踏まえ「未見の私の発見・人権尊重・自主自律」を育み、何事にも主体的に取り組む生徒の育成に努めるとともに、社会の変化に的確に対応した学校改革を積極的に進め、生徒の自らの可能性を切り拓く進路実現を勝ち取る支援を、学校全体として計画的に行う。						
中期的な課題	目標	1 分かる、考える授業実践と授業改善	2 社会人としての規範意識と社会性の醸成	3 キャリア教育の充実による希望進路の実現	4 野津田高校への帰属・貢献意識の高揚	5 生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる高校	6 地域・保護者等との連携と広報活動の推進	7 より良くしていこうとする「組織風土」づくり
	方策	①生徒が分かったと実感し、自学自習に繋げる「生徒に考えさせる」授業。 ②生徒の理解を深めるデジタル教材の開発と蓄積。 ③授業評価並びに相互授業観察を活用した授業改善。 ④授業改善プロジェクトの推進。 ⑤授業時間を確実に確保するための教育課程の見直し。	①人権尊重を基本とした規範意識の育成。 ②全校体制で挨拶とルール遵守の徹底。 ③TPOをわきまえた身だしなみ、立ち居振る舞いの④教員と生徒が互いに尊重し合い「理解・納得・責任」に基づいた丁寧な生活指導。	①進路指導計画に基づく、キャリア教育の実践。 ②関係機関・地域と連携した、「社会と繋がる」将来を意識した進路の明確化。 ③スキルアップ事業を活用し、自分の可能性と視野を広げ、進路実現に繋げる計画性と事前事後学習の徹底。	①学校行事や部活動など、所属する組織の一員としての役割と目標を明確にさせ、達成度を振り返らせ、成果を認め合う活動を取り入れる。 ②生徒の自主性を重んじ、生徒の活躍の場を意図的かつ計画的に創出する。 ③防災訓練・地域行事など、地域連携行事や、清掃等の地域貢献活動を通して自己肯定感を高める。	①学校行事や部活動など、所属する組織の一員としての役割と目標を明確にさせ、達成度を振り返らせ、成果を認め合う活動を取り入れる。 ②生徒の自主性を重んじ、生徒の活躍の場を意図的かつ計画的に創出する。 ③防災訓練・地域行事など、地域連携行事や、清掃等の地域貢献活動を通して自己肯定感を高める。	①生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる高校 ①自主自律の生活態度の育成。 ②いじめや体罰を許さない、人権尊重を教職員自ら体现する校風づくり。 ③他者を思いやり、誰もが安心して学習できる快適な学校環境を整る。 ④心のSOSを見逃さない教育相談の推進。 ⑤特別な支援、日本語指導に対応する組織づくり。 ⑥施設設備の定期的な安全点検と速やかな修繕・整備。	①Classiを活用した保護者への十分な情報の発信。 ②保護者とのきめ細やかな生徒情報の共有と連携。 ③中学生や地域に向けた広報活動の充実・改善による学校理解の促進。 ④地域、外部の声に耳を傾け、期待に応える学校運営。 ⑤学校開放事業、周辺校との連携を通じた、開かれた学校づくり。
項目	今年度の取組目標と方策 (1)教育活動の目標と方策				(2)重点目標と方策		(3)数値目標 [昨年度実績]	
I 学習指導	目標	生徒が「参加する・分かる・考える授業」の理念のもと、日常の授業を改善するとともに、生徒の主体的な学習意欲を向上させる			教科の魅力と学ぶ姿勢を植えつける「考える・分かる」授業の実現に向けた、不断の改善			<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に対する生徒の肯定的意見 85%以上[82%] ・生徒間の対話的授業実施 90%以上 [84%] ・授業内での ICT 機器等活用 95%以上 [88%] ・端末による予習・復習課題の配信と回収 各授業の 60%以上 ・デジタル教材活用(動画・双方向) 45% [36%] ・オンライン英会話事業推進 85%[80%]
	方策	1 生徒が能動的に授業に参加し、知識や思考力を身に付ける学習態度を育成 2 生徒の学力向上、基礎学力定着に向けた組織的な講習・補習・補講の計画と実施 3 生徒の「参加・理解・思考力」を促す、一人1台端末を活用した授業展開、予習復習課題の配信と回収、評価 4 国際交流事業の充実と教科における学習活動との連携の明確化 5 持続可能な社会を実現するために、国内外の課題に気付き、解決しようとするグローバル人材の育成			①基礎・基本を重視し、生徒参加型の授業展開を計画し実践する。 ②毎授業のまとめで「授業を通してできるようになったこと、わかったこと」を振り返らせ、学習成果を「見える化」させることで学習意欲を高める。 ③基礎学力の定着や進学受験や検定試験対策となる講習・補習を実施する。 ④デジタル教材の蓄積と活用による「わかる授業」と家庭学習時間の確保 ⑤国際交流事業により、国際理解を深め国際協調の必要性を認識させる。 ⑥国際課題を各教科に関連付けて取り上げ、解決に向けた調べ学習や話し合い活動を通して、創造性、論理的思考力を育成する。			
II 生活指導	目標	基本的な生活習慣の確立と、社会性・協調性の育成			自主自律の心を育み、主体的に行動する生徒を育成			<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒、前年度より 30%以上の遅刻回数減少 ・ヘルメット着用意識・着用 100%・50% [20%・7%] ・美化に対する意識向上 85%以上[76%] ・生徒の校則の遵守 90%以上[85%] ・特別指導の回数、令和6年度より 50%以上の減少
	方策	1 遅刻、欠席指導を軸として、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 2 規範意識の育成を図り、社会的自立を促す教育を推進 3 全校体制で礼儀作法、授業規律及び校内清掃を指導し、自律する生徒を育成 4 生徒の主体性を育てる学校行事や部活動運営			①規則や宿題、トレーニング等を課すことで、「今すべきこと、やらなければならないこと」を生徒自ら判断し、自分の行動をコントロールして成し遂げる力、忍耐力、精神力を身に付けさせる。 ②社会人に求められる、挨拶、身だしなみ、礼儀を、学校生活や授業規律を通して指導する。 ③快適で落ち着いた学習環境を「生徒自身が守る」姿勢で、校内清掃に取り組みせる。 ④特別指導に発展させない、生徒の背景を理解した丁寧な生活指導 ⑤学校行事や部活動を中心に、生徒が主体的に活動する仕掛けをつくり、生徒の活動を見守りながら必要な助言とサポートを行う。			

III 進路指導	目標	キャリア教育を充実させ、生徒が希望する進路の実現	キャリア教育を推進し、進路希望を具体化させた進路決定率を維持・向上	
	方策	<p>1 3年間を通じたキャリア教育により、計画的に自己を理解し、自己の将来を考え、社会の一員としてどのように生きるかを見据えた進路を、生徒自ら選択する。</p> <p>2 スキルアップ事業を活用し、新しい経験に積極的に挑戦させ、自己の可能性を広げたり、新たな自分を発見し、それを進路に結び付ける。</p> <p>3 生徒の現状を的確に把握し、保護者も含めた粘り強い進路指導</p>	<p>①1年次より「進路の手引き」活用し、自己の適性、資質、能力を把握し、幅広く職業を知り、上級学校の理解を深めさせた上で進路を考えさせる。</p> <p>②検定受検やジョブキャンプ等に参加する意義を理解させ、目的意識を明確にさせたうえで参加を促し、事後の振り返りにより新たな自分を発見させ、自己の進路や進路活動に繋げる指導を行う。</p> <p>③授業や特別活動など学校生活のあらゆる機会を活用し、対話等を通して、生徒に自分のキャリアや進路、職業について考えさせる。</p> <p>④生徒向けの進路ガイダンスや、教員向け進路研修会の実施</p> <p>⑤保護者への適切な進路情報の提供、面談を通じた具体的なアドバイスにより、生徒の進路決定や円滑な進路活動を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に対する生徒の肯定的意見の割合 80%以上[73%] ・検定の受検者 300 名以上 [受検者 245 名] ・進路決定率 95%以上[92%] ・進路未定率 5%以下[8%] ・教員向け進路研修会 年3回以上 ・保護者向け進路情報発信 年4回以上
IV 特別活動	目標	学校行事、生徒会活動、部活動等の特別活動の活性化	感動体験や成功体験による帰属意識や貢献意識の高揚 地域連携を通じた社会貢献活動により社会性・協調性を身に付けさせる	
	方策	<p>1 学校行事、生徒会活動等の生徒よる主体的な運営と主権者教育の活性化</p> <p>2 地域清掃や地域貢献活動を推進し、地域から信頼される学校に発展</p>	<p>①都の推進事業を活用し、生徒の知識を充実させ、技術を高めさせる。</p> <p>②生徒が主体となる機会を増やし、健全な社会性と協調性を育成する。</p> <p>③地域清掃や地域連携、貢献活動を積極的に実施し、生徒の参加を促進し自己有用感を高めさせる。また、地域の学校理解に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率 60%以上[56%] ・クラスや部活動での良い友好関係が築けた割合 85%以上[82%] ・部活動や学校行事に対する生徒の肯定的意見の割合 85%以上[82%] ・地域貢献活動 18 回[3 回]
V 心身の健康	目標	人権尊重の意識を高め、健康づくりの推進、安全・安心に生活できる学校の実現	生徒理解に基づいた適切な手立てで、将来に繋がらない中途退学者の減少	
	方策	<p>1 互いを思いやり、自他共に大切にす気持ちと態度を育成し、いじめや差別、暴言や暴力のない、安心・安全に過ごせる学校生活を実現する。</p> <p>2 教職員は生徒の模範となる高い人権尊重意識で教育に携わることで、不適切な指導や体罰を根絶する。</p> <p>3 学校保健計画に基づき、生徒の健康の保持増進を図り、安全確保を徹底</p> <p>4 特別支援や日本語支援を必要とする生徒へのきめ細かな対応と指導の確立</p> <p>5 「TOKYOACTIVE PLAN for students」に基づいた、生涯に渡る豊かなスポーツライフの実現と健康意識の向上</p>	<p>①いじめの未然防止・早期発見・早期対応を実施するため、全教職員がいじめに対する鋭敏な感覚をもち、学校いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応を徹底する。</p> <p>②教員と SC が連携し、教育相談の充実と気になる生徒等への保護者連絡、家庭訪問、計画的な面談を実施する。</p> <p>③集会やロングホームルーム等で、人権尊重、命の大切さ、SOS の出し方に関する授業を、年3回以上実施する。</p> <p>④体罰や不適切な指導、暴言の禁止・根絶等の研修による、互いの言動をチェックする意識の啓発。</p> <p>⑤特別な支援が必要な生徒の情報を共有し、必要な支援策をケース会議で確認し、すべての教員が対応できるよう、研修内容を充実させる。</p> <p>⑥日本語指導・支援が必要な生徒の情報を共有し、対応に携わる教員を増やすことで校内理解を促進する。</p> <p>⑦学校生活と日々の授業、ホームルーム活動、特別活動などあらゆる学校生活の中で、社会人として自立した生活を送るために必要不可欠である基本的な生活習慣、体力、ストレス対処法、忍耐力、精神力を身に付けさせる。</p> <p>⑧がん教育を年1回以上実施するとともに、成人病予防を含めた健康意識を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ※法に基づくいじめ認知件数は問わず、いじめ対策委員会において案件を検討し、組織的な対応、いじめ解消までの取組を徹底することを重要視する。[2 件] ・人権尊重、命の大切さ、SOS の出し方に関する授業 3 回 ・生命に関わる重大事故の件数 0 件を継続 ・教育相談・ケース会議の研修会 3 回[2 回] ・体罰、不適切な指導、暴言 0 件 ・がん教育 1 回 ・中途退学者 15 名以内[33 人]、転学者 20 名以内[31 人]

VI 広報活動	目標	日常の教育活動の情報発信・教育方針の理解の促進	広報活動を改善し、地域から選ばれる学校として、応募倍率向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新回数 400 回以上[394 回] ・学校見学会・学校説明会の来場者数 450 人以上[394 人](中学 3 年生のみ) ・体験授業参加者総数 100 人以上 ・出前授業や部活動体験の回数10回以上 ・推薦の応募倍率 1.3 倍を目指す[1.22 倍] ・学力検査の応募倍率 1.0 倍を目指す [0.54 倍]
	方策	<ul style="list-style-type: none"> 1 HP の充実や PR 動画を制作し、本校の魅力や情報の発信力と学校案内の改善 2 生徒が主役となる発信方法を構築し、本校の日常の教育活動を効果的な発信 3 見学会・説明会・体験入学等を実施し、本校の特色及び各学科の特徴を説明 4 出前授業等や部活動体験を増加させ、中学校との連携・交流の一層の推進 5 母校訪問や中学校訪問、福祉科・体育科の積極的な説明会等の実施 6 地域住民の学習・スポーツ活動に貢献し、施設開放事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校ホームページの改善による見学会・説明会の参加者の増加と学校パンフレットの改善 ②3科それぞれの体験授業を実施することで、学校理解を深めさせ、入学希望者増加につなげる。 ③出前授業や中学校での学校説明会、部活動体験や交流の増加 ④地域から選ばれる学校への着実な変革を実現させ、入学選抜検査の応募倍率を向上させる。 	
VII 学校経営・組織体制	目標	教職員の業務運営と学校経営への参画	信頼される学校の「組織・校風」づくり	
	方策	<ul style="list-style-type: none"> 1 企画調整会議と分掌・学年会議、各委員会の組織的な運営と各種規程の見直し 2 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、業務の効率化と平準化 3 学校運営連絡協議会等、保護者や地域からの声に耳を傾けた学校運営 4 特別支援学校との協同的な取組を密にし、共生社会に向けた具体的な取組の検討 5 日本語指導が必要な生徒の組織的な対応 6 服務事故の根絶 	<ul style="list-style-type: none"> ①各分掌組織の機能向上と学校課題や校内規定の改善 ②会議の効率化、ライフ・ワーク・バランスを推進及び年休取得の促進 ③クリーンデスクを図り、個人情報管理と紛失への意識を向上 ④地域や PTA、同窓会等の関係機関と連携した防災訓練や共催事業による教育活動の充実 ⑤インクルーシブ教育の理念に基づいた町田の丘学園と連携のための組織づくりと、相互学校理解の促進 ⑥特別な支援や、日本語指導に携わる教員を固定化させず、誰もが対応できる力を身に付ける。 ⑦服務事故を自分事として捉え、人事部のメール配信や研修を通した正しい理解の下、定期的に自らの言動をチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月 45 時間以上の超過勤務平均人数 0 名 [9.3 名] ・年間 360 時間以上の超過勤務 10 名 [16 名] ・年休取得率 60%以上[51.2%] ・男性教職員の育児休業制度の活用を奨励 [1 人] ・町田の丘学園との連携事業 5 回以上 ・服務事故 0 件 [2 件]
VIII 学年	目標	基本的な生活習慣や主体的な活動、進路実現を勝ち取る生徒の育成	3年間を見通した継続的・計画的な指導を通した、社会人としての資質・能力・態度の育成	
	方策	<ul style="list-style-type: none"> 1 社会人としての心構え(時間厳守・身嗜み・言葉遣い・ルールやマナーを守る)や美化意識を向上させる計画的な育成 2 生徒が主体的な学校行事や部活動等の参加による学校生活の充実 3 面談や進路ガイダンス等を活用し、実社会の現実と進路意識の啓発に努め、個々の生徒のより良い進路希望の実現を支援 4 生徒の探究活動やスキルアップ講習や検定等の積極的な挑戦を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ①社会人としての心構えの定着と美化意識の向上 ②生徒に役割を与え、生徒が主体的に活動できる機会の創設 ③個人・三者面談等による、生徒の状況を踏まえた適切な指導助言を通した進路指導の充実 ④課題のある生徒・保護者のスクールカウンセラー活用の促進 ⑤各種検定等、挑戦する意義と目標を明確にさせ、取組を支援する。 ⑥小さな事、些細な事でも生徒の成長に気付き、認め、誉め、自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆勤生徒数、各学年 15 名以上 [1 学年 9 名、2 学年 12 名、3 年生 9 名] ・生徒や保護者の入学満足度 80%以上 [65%] ・一人1回以上の検定への挑戦と専科の資格 100%合格継続
IX 人材育成	目標	考查や授業評価等を通して、教科としての学習支援体制の充実と教科資料の共有化	何事にも主体的に取り組む生徒の育成に努めるとともに、社会の変化に的確に対応した学校改革の推進	
	方策	<ul style="list-style-type: none"> 1 授業・教材等、分析に基づく教科としての学習支援体制の充実 2 教材や課題プリント等の共有化 3 Society5.0 時代を踏まえ ICT 機器を活用した授業研究や教材開発 4 高い倫理観をもった教職員集団の醸成と法規法令の遵守 5 授業評価を活用した授業改善を推進し、組織的な学力の伸長と推移を検証 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の学習状況調査を活用したとデジタル教材活用を含む指導改善 ②学校課題の改善と教育課程の見直しに向けた、意見交換会の開催 ③一人年間2回以上の相互授業見学や若手の研究授業協議における指導助言を通した、組織的な授業改善 ④他校の研究授業や研修センターの専門性向上研修への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅教員を講師とした若手教員の研究協議会 12 回以上[18 回] ・ICTリーダー等によるデジタル技術を活用した教育等の研修会実施 3 回以上[3 回] ・年2回以上の相互授業見学[70%]
X 経営企画室	目標	行政系職員による業務運営と学校経営への参画	教職員と経営企画室が一体となった、適切な学校運営	
	方策	<ul style="list-style-type: none"> 1 学校経営計画に基づき、各分掌や各教科等と連携し、教育目標の達成に向けた具体的な取組や提言の促進 2 学校経営計画の実現に向けた適正で効果的な自律経営推進予算の編成・執行 3 施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕を徹底 4 地域住民を対象とした施設開放事業の円滑な実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①行政職員からの予算を意識した業務進行等や効率向上のための提言を促進及び効果的な自律経営推進予算の編成・執行 ②自律経営推進予算や学校徴収金、生徒会予算の円滑な運用 ③施設設備の日常的な安全点検と速やかな修繕・整備 ④施設開放事業を含め、東京都や町田市の施設利用の協力・連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般需用費のセンター契約集約率 65.0%[63.7%] ・2 月末までに次年度自律経営予算計画作成

